

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.12

ドキュメンテーション

■文系でコンピュータが基礎から学べるユニークな学科

ドキュメンテーション学科は、「コンピュータの知識を身に付け将来に生かしたいと考えている人」や「コンピュータのことをこれから学びたい人」に、とてもお勧めです。

ドキュメンテーション学科の学生には、ノートパソコンを全員に4年間貸与します。このノートパソコンは学内外を通して自由に持ち歩くことができます。ノートパソコンを学内LANに繋いでインターネットを利用したり、授業で使用するほかに、放課後や自宅での予習・復習にも活用できます。もちろん、趣味に活用することもあるでしょう。ノートパソコンは授業で使う教室だけでなく、大学図書館でも学内LANに接続して、インターネットを利用することができます。

高校で受けている「情報」授業の内容は色々だと思いますが、ドキュメンテーション学科の授業には、様々な知識の凹凸の差を縮めるべく、復習的内容も盛り込んでいます。キーボード入力に習熟していない学生には、授業外でのパソコン補習も実施しており、入学したすべての学生がコンピュータに習熟できるようなカリキュラム構成になっていますし、パソコンの使い方を本当の基礎から学べます。入学してすぐに始まる必修授業「情報機器教育論」では、学生各自のノートパソコンを使って、その仕組みや様々なソフトウェア（ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ペイント等）の使い方やセキュリティ、情報モラルについて学びます。

ドキュメンテーション学科には、3つのコースがあります。図書館学コース、書誌学コース、情報学コースです。コース選択は3年生に進級する時に行いますが、どのコースを選択しても、学生生活においてノートパソコンは強力な武器となるでしょう。自分でソフトウェアを追加したり、バージョンアップしたりしながら、普段の授業、レポートやテストをこなしていく中で、いつしかノートパソコンが自分の親友になっていきます。

1年生の授業は、英語や第二外国語、体育や宗教学、共通科目（人文・社会・自然科学分野から各自が選択し



ます」といった共通科目に加えて、ドキュメンテーション学科の専門科目も受講します。情報学コースは、データベース・システム・ネットワーク・マルチメディアといったキーワードを中心に科目群が形成されています。例えば、「ネットワーク概論」です。これは、1年生後期の専門必修科目です。もちろん、ノートパソコンは受講する際、必要なツールの一つです。高校の教科「情報」では踏み込むことが出来なかった、より詳しいネットワーク技術の話が展開されます。どうして、パソコンや携帯電話がインターネットに接続できるんだろう？といった、ごく当たり前のことの裏側について解説を行います。聞いたことがない専門用語がたくさん出て来ますので、最初は戸惑う人もいるかもしれません。しかし、段々と授業が進むにつれて、自分で調べることが出来るようになります。

こういったコンピュータに関する知識や技術を身につけた卒業生は、ITサービス業、卸・小売業、サービス業など、様々な分野で活躍しています。

高校生の皆さん、是非、文系でコンピュータのことを基礎から学んでみませんか。

ドキュメンテーション

元木 章博 Motoki Akihiro

夢に向かって

出口 麻美
Asami Deguchi

私は、図書館学コースに進みました。

まず、ドキュメンテーション学科とは、情報を収集・加工・提供・保存する技術を学ぶ学科です。そのために、パソコンをツールとして扱うための技術や、図書館での分類の技術などを学んでいきます。

私はこれまでに、障がい者や外国人などに向けての図書館サービスを学ぶ“図書館サービス論”や、1965年版と1987年版の日本目録規則（NCR）を使用して、カード目録を作成する技術を学ぶ“ドキュメント処理演習Ⅱ”などの科目を学んできました。

その科目の中で、一番印象に残っているのは、“情報サービス演習Ⅰ”です。この科目では、図書館のレファレンスデスクに利用者から寄せられる、本の所蔵に関する質問や人物・言葉に関する質問に対して、図書館に所蔵されている資料やWeb上に公開されているデータベースを使って回答する“レファレンスサービス”について学びます。ここで、私は、複数の資料を突き合わせて、内容の確認をしっかりとる事と、利用者が本当に知りたいのは何か、きちんと理解する事の大切さを学びました。

私は、図書館学コースに進んだら、“障がい者や外国人向けの図書館サービス”について学びたいと思っています。

このテーマについては、司書になりたいと思った高校時代から関心があり、調査していました。その時の調査結果を、図書館や司書について学んだ現在の視点から、さらに発展出来ればと思っています。それぞれの図書館の個性や特徴が出る、このテーマを学ぶ事で、より深く図書館について知る事が出来るようになるはずです。

夢を叶えるためのステップ

池上 友梨
Yuri Ikegami

私は情報学コースへと進み、ネットワークの仕組みを理解した上で、情報セキュリティについて学んでいます。

私には、情報セキュリティに携わる職業に就いて、誰もが安心してインターネットを楽しめる環境作りに貢献し続ける、という夢があります。その夢を抱く契機となったのは、高校生の時、友人がパソコンにDOS攻撃を受けて困っていたのに、何もできなかったという苦い経験でした。以来、悔しさを原動力として、情報セキュリティを独学で勉強し、資格試験を受けていましたが、いつの間にかそれを楽しむようになり、将来の仕事にしたいと思うようになりました。

しかし、情報セキュリティに携わる上で必要不可欠なネットワークの仕組みについて、私の理解はまだまだ足りないことがわかりました。それはネットワーク各論Ⅰという授業を受けていたとき、コンピュータウィルスなどの専門的な話は理解できるのに、そもそもインターネットはどうして通信できるのか、という基本的な話を何一つ知らず、また、難しいと感じたからです。

また、夢を叶えるためのステップとして挑戦している情報処理技術者試験でも、要求されるのは専門性以前に、幅広い知識でした。

私は専門性を高める前に、まず基本的な幅広い知識を身につけたいと思います。それが情報セキュリティに携わる仕事に就くために欠かせないことだと考えているからです。

学生の声



多彩なコース選択

根岸 治実

Harumi Negishi

私は、図書館学コースに進むか、書誌学コースに進むか悩みました。何故なら、両コース共に、非常に魅力的な専門科目が揃っているからです。

図書館学コースでは、図書館の歴史、サービス等を学べる「図書館概論」と言う授業があります。これは、司書講習にも設置されている科目です。

また、「情報検索演習」という専門科目では、普段私達が何気なく使用している「インターネット検索」のより詳しい内容を学べます。もちろん、紙媒体の資料も用い、様々な検索を行います。この授業の延長線上には、「情報検索能力試験」と言う資格があり、私は2年生の時に基礎級に合格しました。2級の取得も視野に入れていています。私は、情報サービスと言う分野にとっても興味があり、利用者がより快適に利用できる図書館作りがしたいと思っています。その為にも、「情報検索能力検定」は、図書館員にとって必要な資格だと思っています。

しかし、書誌学コースもとても魅力的でした。書誌学コースには「古典籍読解演習」という授業があります。これは、「くずし字」と呼ばれる文字を解読する授業であり、一番印象に残った授業です。最初は、「読める訳ない！」と思う様な難しい文章を読めた時の感動は凄いです。古い書物を読めるという新鮮さ、難しい書物でも勉強すれば読めるという自信も付き、書誌学の勉強はとても楽しいです。

私は迷いに迷って書誌学コースに進みましたが、図書館学コースの授業も履修して司書資格の取得を目指す気持ちは変わりません。

卒業論文 発表会に 参加して

野口 和希

Waki Noguchi

卒業論文発表会と聞くと私は重苦しく、ピリピリした空気の中にずっと座っていかなくてはならないというイメージがあり、最初は行くことを悩みました。

当日、教室に入ってみると、意外と雰囲気は明るく、3年の先輩方は忙しそうに動き回り、4年の先輩方はリラックスした様子に見えました。私は3列あるなかの真ん中の席に座り、発表会の開始を待っていました。時間が近づくにつれて、4年の先輩方のピリピリとした緊張した空気が伝わってきました。ただ発表を聞いただけなのに椅子に座っている私までも緊張したので可笑しい気分になりました。

元木准教授の挨拶の後、3年の先輩の進行で発表会は始まりました。最初の先輩は『LAN環境における不正アクセス対策の提案および運用-なりすましの危険性-』についての発表でしたが、専門用語がバンバン出てきて、私には全く分かりませんでした。他の先輩方や他大学の先生方は様々な質問をしていました。私はその質問の意味さえ分かりませんでした。

3組を終えて、10分の休憩を挟みました、その後3組終えて昼休みになりました。私が思っているよりも発表は速く進み、持ち時間20分というのは短いように思えました。

午後も休憩を挟んで6組の発表を聞きましたが、内容が難しく私が分かったのは一部の単語くらいでした。発表の間中、「3年後の私はしっかり前に出て発表ができるのだろうか。」と考えていました。今でも、分からないまま過ぎていく授業もあるのに、3年後の私が立派に発表している姿がとても想像ができませんでした。

今回、卒業論文発表会に参加して今の私にできることは3年後、恥を掻かぬように1つ1つの授業を真剣に受けることだと考えました。

マークアップ言語のグリーンナ

Gleaners of Markup Languages

大矢 一志
Kazushi Ohya

No.6 HTML5 その1 読み手の立場から

夏のある日、自宅のテレビが映らなくなりました。ラジオからもテレビの音が消えてしまいました。アナログ放送が停波したようです。今年(2011年)は、テレビ以外の様々なところで、電波の信号がアナログからデジタルへと移行しました。メディアの時代を開いたテレビ放送が始まったのは、およそ60年前のことです。人が生み出してきた文化の歴史の中では、それ程長いものではありません。およそ1パーセントくらいでしょうか。このような歴史の瞬きの間に、わたしたちは、文化の表現方法を、アナログからデジタルなものへと変えています。遠い未来から今の時代を眺めれば、恐らく、デジタルこそがメディアの本質と呼ばれることになるのでしょう。今回は、そのような電子化された文化の表現方法の中から、電子化された本、いわゆる電子書籍について、考えてみましょう。

ご存じの通り、書籍には、他のメディアと比べて、長い歴史があります。パピルス、羊皮紙、紙など、媒体を変えながら、書籍は文化の担い手として中心的な役割を果たしてきました。ところが、デジタルの電子書籍は、今までのそれと大きく異なり、どのような技術で書籍を作るかにより、読書の方法が変わってきます。

電子書籍は、印刷された書籍と違い、いろいろな端末を使って、本を楽しむことができます。例えば、携帯電話、電子ブックリーダー、パソコン、時にはゲーム機を使い本を読むことができますようになります。このような、多様な機器で読書が可能になるのは、決して悪いことではありません。人によっては、印刷された書籍の方が、電気も要らず、持ち運びに便利である、という意見もありますが、電池が空の携帯電話を携帯する人はいないでしょうし、携帯電話を家に忘れる人も(わたし以外)それ程多くはないでしょう。また、例えば、書店のアマゾンから電子書籍を買ったと、その電子書籍は1冊買うだけで、どの端末でも読むことができます。携帯電話を買い換えても、ほぼ自動的に、新しい携帯電話で同じ電子書籍を読むことができます。電子書籍は、印刷された書籍と比べて、抜群の携帯性があるといえます。

このような電子書籍の便利な使い勝手は、日本よりも先に、アメリカやヨーロッパで実現し、多くの人とその便利さを楽しんでいます。特にアメリカでは、人々の日常に電子書籍は広く・深く浸透しているようです。例えば、空港や駅では、電子書籍を楽しむ人をよく見かけることができます。大学では、「印刷の新刊」「古本(も売っています)」「貸本(という制度もあります)」に加えて「電子書籍」でも教科書が販売されています。このように、日常で電子書籍に親しんでいる欧米の人たちの様子は、これから電子書籍の時代を迎える日本人にとっては気になるところです。

実は、大変面白いことに、欧米の人は、電子書籍に対する共通の意見として「印刷された読書と電子書籍の読書は、異なるものである」という感覚を持っているようです。本に向き合う姿勢が、印刷書籍と電子書籍では、異なるというのです。欧米の人たちの経験では、どうやら、印刷書籍と電子書籍とでは、本に書かれている内容を読み解く作業に違いがあるようです。

電子書籍を読むには機器が必要で、それには多かれ少なかれ、読書以外の機能が付いています。例えば、電話、メール、ゲーム、ネットワーク接続などです。このような、他の情報(源)へのアクセスを可能にする端末を使うとき、わたしたちは、その中のひとつである読書に、集中することが少なくなる、というのです。とりわけ、ネットワーク環境がある時には、読書の最中に、気になったことがあると、すぐに検索を始めてしまい、まるで、テレビのチャンネルを細かく変えるザッピングのように、読書するページを次々と食い散らかし、変えてしまう傾向があるとのことです。これは、電子書籍を考えるまでもなく、わたしたちがネットを使って情報を検索するときの行動そのものです。1つの情報源を集中して読むよりも、複数のサイトを辿ってしまいます。これが、ひとつの(電子)書籍を集中して読むことを、妨げているというのです。

わたしたち人間は、道具を体の一部として取り込む能力を持っています。例えば、ギターのパックに馴染んだ手は、パックの先に指があるように、ギターを鳴らすことができるようになります。ネットワーク端末もそのような道具と考えれば、わたしたちは、それを体の一部として認識し、振る舞うようになることは、自然のことかもしれません。いわば、ネットの世界に「プラグイン」するのです。電子書籍の読書とは、膨大な情報源へのアクセスが可能になっているなかでの、ほんの1つのサイトを訪ねることになってしまうのでしょうか。

一方、欧米の人たちは印刷された書籍を読むとき、それに没入することができる、という感覚を持つようです。わたしたちも、これは直感的に想像できることでしょう。哲学書にある難解な文章を、何度も読み返し、その意味を読み解こうとしてみたり、数学や物理の教科書にある内容を、式や図を書きながら理解しようとする読書は、もしかすると、印刷された書籍の方が、よいのかもしれません(すると、電子教科書はどうなるのでしょうか)。

もちろん、このような違いをどのように捉えるか、つまり、電子書籍の読書姿勢の方を前向きに捉えるのか、それとも印刷書籍の方が重要なのだと捉えるのかは、人によりまちまちです。みなさんは、ぜひ、電子書籍での読書を沢山経験し、自分で評価をしてみてください。

ところで、このような電子書籍を支える技術として「HTML5」という新しいマークアップ言語が、現在、W3Cで検討されています。HTML5では、動画を含めて、様々なメディアをダイナミックに扱えるようになります。例えば、webページにあるテキストを動画の中に表示したり、時間を入力すると、その場面が再生されたり、動画の目次(e.g. 演劇の第3幕とか)を表示しながら、それを選択すると、その場面が再生される、などが可能になります。HTML5に興味がある方は、書店にも案内書が出てきましたので、手にとって読んでみてください。但し、HTML5は、まだ策定中なので、今後も内容は変わる可能性があることに注意してください。それでも、今のうちから学習していけば、HTML5の正式決定と同時に、本格的に使い始めることができるでしょうから、無駄にはならないでしょう。

実は、HTML5は、新しい楽しみをもたらす予感をさせる技術で、多くの人から期待されているのですが、先に紹介した「読書の姿勢」の捉え方が、HTML5の利用に大きな影響を与えることから、利用の様子が読み切れていません。例えば、読み手がHTML5で書かれた電子書籍に何を求めるのかにより、作品のレイアウトやそれに加える機能が変わってきます。読むことに集中できるよう「読みやすい・見やすい」環境を用意するか、それとも、読書への没入をさせないよう、多くのリンクや、動画を取り込むのか、それとも、読書が主体ではなく、他の人の感想や自分のコメントを楽しむ環境を作るのか、などです。電子書籍とは、印刷された書籍とは、根本的に異なるものと捉えた方がよいのかもしれません。HTML5は、このような、多様な読書の仕方にできるだけ応えるよう、柔軟な技術となるよう、策定が進められています。



■プレゼントします！

比較文化研究所ブックレット No.9 『人文情報学への招待』

ドキュメンテーション学科准教授 大矢 一志

学科の教員が人文情報学の入門書を書きました。先着5名の方にこちらをプレゼントします。ご希望の方は、ハガキに1.住所、2.氏名、3.学校名、4.学年をお書きの上、当学会の「プレゼント係」までお申し込み下さい。該当者の発表は、発送をもって代えさせていただきますことをご了承下さい。

Q2

在学中に学んだことで卒業後に
役立ったことはなんですか？

授業

- ◎ 司書になったので、どの授業も役立っています。
- ◎ ネットワーク環境についての知識とXML。
- ◎ データベースなど情報処理の基本を学べたことが非常に助かっています。
- ◎ パソコンスキルはもちろん、英語が3年まで必修なので役に立ちます。
- ◎ エクセルやワードを多用するのだからり助かっています。
- ◎ 今現在、SEとして働いているので、4年間で学んだネットワークの基礎的な知識などは、役に立っていると思います。

*ドキュメンテーション学科の授業内容が色濃く出た回答が多く見られました。(編集委員より)

プレゼン・コミュニケーション力

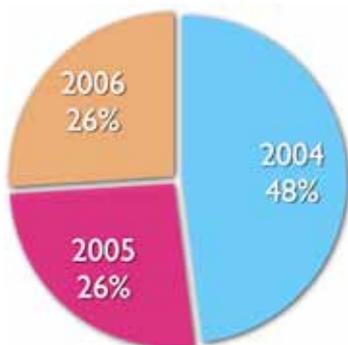
- ◎ 人前で話す事、理解してもらおう事を考える機会に役立っています。
- ◎ 授業や卒論の中間発表などでプレゼン形式や質疑応答などでの発言を割と積極的に行えた。

現役生から **OBOG** への質問

No.1

現役生が気になることをOB・OGの先輩方に質問としてぶつけてみました。先輩方には学生時代を振り返っていただき、様々な回答をいただきました。今後と次号の2回に分けて紹介します。

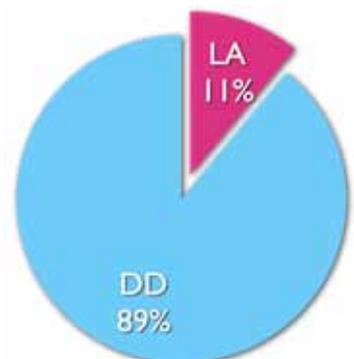
入学年度比率



男女比率



コース比率



※ 2008年度までLAコース(ライブラリーアーカイブコース)、DDコース(デジタルドキュメンテーションコース)の2コース制でした。現在は図書館学・情報学・書誌学の3コースが設置されています。

Q1

ドキュメンテーション学科に入ってよかったことは何ですか？

人との交流

- 高校生時よりも沢山の友達ができて良かった。友人達と遊んだり話したりした事はとても良い思い出だし、ゼミの仲間達と合宿で騒いだ事や卒論で苦戦し、協力しあった事も良い思い出と思う。
- 大学に入り、様々な人と接することで目的意識を持ち、自分のキャリアパスを見直すことができたこと。また、その結果、卒業後も交流出来る恩師や仲間ができたこと。
- 良い部活に入って充実した日々を過ごせたこと。
- 一生付き合っていく友人が増えた。卒業してからもゼミを通じて学校の人と交流が持てた。
- 交流が多い学科で、先生とはもちろん先輩後輩とも仲良くなれます。

コンピュータ

- PCは苦手だったのですが、毎日担いで通っていく内に愛着が湧いて苦手意識が無くなりました。
- ほぼ使えなかったPCを操作できるようになった。

研究室

- 研究室に所属してからの思い出が強いですが、楽しいこともそれ以上にあった1年でした。
- 研究室を通して、先生の知り合いや後輩など幅広い繋がりができた。

授業・資格

- 必修授業と補講のお陰で、ワードとエクセルが使えるようになったこと。
- 今はまだ役立てられてないが、司書の資格が苦労したものの取れて良かった。
- 私は大学時代に取得した資格を活かし、学校司書をしています。大学を入学した当初は、解らないことだらけでピンとくるものが無いままでしたが、今では習ったことを実践しています。無駄なことは何一つ無いんだなあ実感しながら日々、使いやすい図書室作りをしています。この学科に入学して本当に良かったと思っています！
- レファレンスサービスの授業は、本で調べる事の大変さと、その調べた内容を伝えることとその情報を次に同じことを調べる人にデータとして残す事の大切さを学びました。今思えば一番大変だった授業な気がします。

*詳細には触れていませんでしたが、インターンシップに関する記述が幾つか、ありました。(編集委員より)

回答期間：2011.2.10-21 回答者数：27名

回答方法：Web アンケート（携帯電話での回答も可） ※REAS（放送大学提供）を利用しました。



10名の学生が、9社の企業で実習を行って来ました。ご協力いただきました各社には感謝申し上げます。

□ 株式会社紀伊國屋書店 長島 裕

実習では主に図書館での業務体験をさせていただきました。図書の受入から配架までの一通りの業務をさせていただき、授業で学んだことを生かせる場面もあり、良い経験となりました。他にも、事業の説明や流通現場の見学などもさせていただきました。もし将来、図書館に勤めてみたいという人や出版業界に興味のある人は、ぜひインターンシップに参加してみてください。

□ 株式会社IHIテクノソリューションズ 岡田 玲

実習を通じて、疑問を持って質問する姿勢、自分から動く積極性の大切さを学びました。コミュニケーション力の大切さも実感しました。実習中、社員の方に大学のことをうまく説明することができた時は、わかりやすく相手に伝える力が少し身についたと、達成感を感じました。また、就職活動のアドバイスもいただき、心強く思いました。

□ 株式会社サンエー・インターナショナル 長部 南

インターンシップ実習を受け、何事も経験することが大切だということを学ぶことができました。実習では、アパレル業での接客方法を学びました。実習初日、私

は不安と緊張で上手く業務を行えませんでした。それでも徐々に業務内容を覚え、日数を重ねてゆくことで上達し、接客の楽しさを学ぶことができました。興味はあるもののなかなか経験まで踏み込めなかった業種だったので、実習は私にとって良い経験になりました。

□ 株式会社ソフテム 比嘉俊也

情報システム系の会社の仕事を3週間体験させていただきました。主な内容は自社のホームページのデザインをリニューアルするというプログラムでした。毎日のすべきこと、覚えるべき事が多かったのですが、とてもやりがいのあるものでした。「インターンシップは正直ちょっと……」と思う人も多いと思います。しかし、まずは挑戦してみてください。

□ 株式会社樹村房 古川 森

校正や本の改装など、出版社の業務の経験に加え、印刷、製本、取次、書店の見学もさせていただき、出版界全体について学ぶことができました。また、学生時代には、これから先教えられたことを理解、吸収するための基礎学力をつけることが重要だ、と教わったことが印象に残っています。自分自身のこれからを考えるにあたり、とても良い体験が出来ました。

※活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第12号をお届けします。
- 今年は、東日本大震災、原発事故、節電といろいろなことがありました。キーワードは「絆」。来年は良い年がありますように。
- 編集委員
〔学生〕井上 優・金丸早希〔教員〕原田智子・元木章博

ドキュメンテーション 第12号
平成23(2011)年12月21日(水)
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
横浜市鶴見区鶴見2-1-3 (〒230-8501)
☎ 045(581)1001 (代表) 発行責任者: 原田 智子
学科ホームページ: <http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>